

山側環状・鈴見交差点の街路樹の移植先・活用方法が決まる！

- 鈴見交差点の改良計画を踏まえて、既存、中央分離帯の街路樹「けやき等」の移植先・活用方法が決定しました。
- シンボルタワーの移設先については、鈴見交差点脇「鈴見橋橋詰」を予定しています。

中央分離帯の街路樹の移植先・活用方法

○主な移植先

街路樹は山側環状沿線等に移植

- ☆山側環状「観法寺パーキング内」、☆大乘寺丘陵総合公園（仮称）内
- ☆田上区画整理事業地内、☆金沢大学角間キャンパス内、
- ☆金沢テクノパーク正部大橋橋詰、他

○その他、移植の困難なけやきの活用方法

金沢美術工芸大学で彫刻の素材として活用

- ☆よい作品ができれば、地元の協力を得て、杜の里地内に作品を設置することも考えられています

○移植等の時期

- 4月下旬頃：鈴見交差点近傍（交差点より田上方面約150m）の街路樹
- 12月中旬頃：残っている（残り230m）街路樹

シンボルタワーの移設先

- 中央分離帯に設置されているシンボルタワーについては、大学の門前街としての象徴を守るため、鈴見交差点脇「鈴見橋右岸橋詰め」への移設を予定しています。

【問い合わせ先】

国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所

副所長（道路） 飛田 潤一 TEL：076-264-8800（代）

石川県 土木部 道路建設課

課長補佐 為重 誠 TEL：076-225-1722

金沢市 都市整備局

都市計画課長 扇子 嘉則 TEL：076-220-2350

1. 事業の概要

事業名：金沢東部環状道路（鈴見交差点改良）

概要：金沢東部環状道路と県道と市道の結接点である鈴見交差点は、中環状道路と外環状道路を結び、環状機能だけではなく、都心への交通を分散導入する機能を持つ金沢市の都心に最も近い交差点であり、市街地と高速交通を最短で結ぶ交差点である。

そのため、市街地にアクセスする交通が集中し交通利用が高い交差点となっている。

本事業は、鈴見交差点における渋滞の解消と、今後、金沢東部環状道路の更なる交通需要に対応するために交差点改良を行うものである。

2. 街路樹及びシンボルタワーのこれまでの経緯

【若松・鈴見地区土地区画整理事業】

昭和60年10月に設立認可された若松・鈴見地区土地区画整理組合は、平成元年から開始される「金沢大学総合移転」を見据え、大学門前街という位置付けを考慮したまちづくりを進めることとなる。

その後、昭和63年に、より質の高い公共施設の整備が認められる「ふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業」に、組合区画整理事業の全国第一号認定を受け、その後の基盤整備とまちづくりを推進され、街路樹やシンボルタワーが整備されたものである。

1) 街路樹

植 樹：昭和63年から平成元年

植樹の経緯：平成元年10月の金沢大学総合移転第一次移転にあわせ進められた都市計画道路の整備の中で植樹されたものである。

2) シンボルタワー

建 設：平成元年

構 造：本体—ステンレス、台座—御影石張り、高さ—13.5m

デザイン：金沢美術工芸大学 産業美術科 小松暁一教授

建設の経緯：土地区画整理のランドマーク、大学門前街の象徴とすべく、石川県、金沢市、区画整理組合が協力しシンボルタワーを建設した。その後、平成元年9月に、「金沢杜の里街開き祭」が開催され、幹線道路開通式とあわせその完成を祝った。

3. 現地の状況写真



街路樹



シンボルタワー